

インド

ガンダール火力発電所建設事業(ⅠⅡⅢ)



本事業により建設された火力発電所

[借款概要]

| | |
|---------|----------------------------|
| 承諾額/実行額 | 75,183百万円 / 67,808百万円 |
| 借款契約調印 | 1990年3月～1992年12月 |
| 借款契約条件 | 金利2.5% / 2.6%、返済30年(据置10年) |
| 貸付完了 | 1997年9月～1998年4月 |

[事業概要]

インド西部のグジャラート州に天然ガスを燃料としたコンバインド型火力発電所を建設し、同地域の電力不足の解消を図り、民生の向上、産業の発展に寄与するもの。

[評価結果]

本事業は3次に亘る円借款により実施され、発電所は1995年末、送变电設備は98年5月に完成した。発電設備能力は、144.3MW×3基のガスタービン及び224.5MWの蒸気タービンの計657.4MWである。

完成当初は天然ガスが計画通りに供給されなかったが、他の発電所からのパイプライン建設により代替調達源を確保した他、機器の改善等により発電効率も上昇し、計画発電量(月300GWh)に対し、実績も同水準前後で順調な運転を続けている。送配電システムもほぼ100%の稼働率となっていることから、本事業はインド西部地方の電力需給格差の解消と安定供給に大きな貢献を果しているものと評価される。

また、発電所建設に伴い、周辺地域の社会インフラ整備も積極的に行われたため、周辺住民の生活水準や利便性も向上したとされる。

なお、本事業の実施機関である国営火力発電公社(NTPC社)及び国営送電会社(PowerGrid社)はいずれも安定した経営状況にあり、維持管理についても特段の問題はない。